

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム
大学名	金沢大学
担当部署	国際機構支援室
コンタクト先	国際機構支援室国際企画係 E-mail: g-planning@adm.kanazawa-u.ac.jp Tel: 076-264-5245

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>ロシアの8つの協定大学等と体系的で多層的な、質の保証された骨太の交流プログラムを構築・実施し、学生交流の規模を抜本的に拡大するとともに、プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開を図る。具体的には、次の4つの交流プログラムを実施する。①文化交流プログラム（単位取得型）：日露両国の特徴的な自然環境や長い年月をかけて育まれてきた文化・芸術を学び、将来的なロシア・日本への長期留学への呼び水とする。学士課程学生を主対象としたプログラムで、語学研修を目的とする派遣留学も含む。②基礎科学プログラム（学位・単位取得型）：これまでの低温物理学分野での学生の双方向交流を一層促すため、博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムと単位互換プログラムを実施。③先端科学技術プログラム（単位取得型）：実学的分野である機械工学と情報科学、環境科学分野で、主に博士前期課程学生を対象に、今後の地域間企業連携を見据えた、企業でのインターンシップ等を組み込む。④先制医療プログラム（単位取得型）：脳神経科学分野に加え、予防医学、がん医学、循環医学分野における博士課程の交流プログラムを実施。理化学研究所、カザン連邦大学と連携して、将来的には日露医学研究教育センターの開設を目指す。</p>

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	カザン連邦大学とのDDP構築を目指しているところ、ETCSシステムを用いたヨーロッパの大学の修士課程は取得単位数が多く、単位の読み替えや、単位の相互利用、遠隔講義、CAP制の緩和、のなどが大幅に認められるようなことがない限り、双方の単位をすべて取得する必要がある。この場合、2年の修士課程に対して3-4年の在学期間が必要になると思われる。学務上の問題が解決されない限り、システムとしてプログラムの構築が可能であるとしても、プログラムに多くの学生が参加することが難しいのではないかと心配する。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	平成28年度から4月制を導入し、学生が留学しやすい体制をしている。教育システム上の取り組みを実施するための質保証小委員会を立ち上げ、今後検討していくこととしている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	・2018年1月17日 金沢大学「日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム」キックオフシンポジウムを開催。ロシア連携機関から計38名（うち17名は大学院生）が参加。その他国内機関からの参加も含め、計120名以上の参加があった。 ・2018年2月6日～22日 文化交流プログラム（受入れ）を実施予定。ロシア連携機関から計6名の学生を受入れ予定。 ・2018年3月11日～21日 文化交流プログラム（派遣）を実施予定。金沢大学の学生20名をカザン及びサンクトペテルブルクに派遣予定。
危機管理への対策	海外に派遣する学生に対し、①全学的な危機管理オリエンテーションの実施（年2回）、②海外渡航届の義務付け、③24時間365日対応可能な海外旅行保険・危機管理サービスの導入、④危機管理に係る情報の学内ホームページでの情報発信などを通して、学内の緊急連絡網、保護者等への連絡体制を整備し、現地で事故や災害が発生した場合などに、速やかに情報の収集や伝達、安否確認ができる体制を整えている。さらに、派遣学生には本学作成の「セーフティハンドブック」を携行させている。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	・石川県内の全ての高等教育機関、自治体そして経済団体が参画する「大学コンソーシアム石川」の枠組みを活用しながら事業を展開する。石川県内の他の高等教育機関の学生もプログラム参加が可能になり、本事業による日露関係の交流に対する理解を多様なセクターへ周知することができる。本事業に参加するロシア側の参加大学間もネットワーク化し、石川～ロシア大学交流コンソーシアムを立ち上げて交流の基盤とする。 ・金沢大学、カザン連邦大学、理化学研究所の3者の連携による日露医学教育センターの立ち上げを目指し、持続的な教育プログラムとして展開する。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

--